



パラダイムの変化が欲しいですね



昨年は様々な天災・人災にみまわれた日本でした。最もショックだったのは3月に東北地方を襲った大地震、想定外の地殻変動による大津波、電力会社も行政も想定外の福島原発事故。この一連の災害は日本の防災行政・原子力行政を根底から覆し、すべてを見直す事を突き付けた大事件でした。この大事件で私は2つの大きな事象に衝撃を受けました。

一つ目は、関西では一般に余り知られていない東北地方の企業群が、日本の超一流企業群を生産調整に追い込み、幅広く国民生活に影響を与えたことでした。今や世界一流企業といえども自社技術で完結するものではなく国内・海外を問わず外部からトップ水準の技術やノーハウの助けを借りなければ世界での競争に勝てない時代ですが、この地域もこれに大きな役割を担っていたという事実です。

二つ目は、震災直後の被災者のインタビュー対応でした。心の中では張り裂けんばかりの悲しみや苦しみを抱えながら、冷静かつ節度ある態度でこの困難を何とか乗り越えて行きたいという思いを切々と語っておられました。この報道は日本のみならず海外でも大反響をよび多くの支援を寄せて頂きましたが、特に海外では日本人とはいったいどんな民族なのだ？信じられないという驚嘆の声が多く報道されました。彼らを支えたのは何だったのか？ やがて「絆」という言葉で表現され、多くの都会人が「忘れかけていた大切なもの」という反応がひろがりました。元々日本人が持っていた大切な価値観（文化）だったのですね。

私が注目したいのは、世界一流企業の文化は、合理主義をベースにしたアメリカ的文化だと思っていますが、このドライな合理主義の世界に、どちらかといえばウェットに見える「絆」を心の支えにした人達が協働して大きな影響力を持ち、そしてその文化が世界の人々を驚嘆させ共感を得ているということです。

閉塞感さえ漂う日本のベンチャー事情ですが、ひょっとするとこれが打開策となり世界に羽ばたけるのではないかと強く感じるようになりました。

これまで制度上「異業種交流」や「産学連携」といった仕組みがあり、その主旨も「協働」にあります。うまくいっている事例は意外に少ないのです。「自分の技術は自分が中心でなければ」「人に話すとマネをされる」「ノーハウを盗まれる」「何とかお金にしなければ」などなどの思いがあり「他人の情報は欲しいが、自分の情報は隠す」という別の日本人の文化(?)が立ちだかっているようですね。

それでベンチャー起業家も仲間内で完結したいという想いと、それを評価する側も経営全般での完成度合で評価する傾向になってしまいます。

「協働」は経産省も以前から推進している施策であります。それが別の日本人の文化に阻まれてなかなか前に進めないということでしょうね。しかし今回の大事件で、「協働」は忘れかけているだけで日本人の元々の文化であったならこれをうまく引出すことはそれほど難しいことではない。あとは個人的権利や適正利益を保護し調整しながら推進する仕組みができ、お互いに信頼関係から「絆」に育っていく環境をうまくリードできれば成功率は高いと思われれます。

ただ言うは易く実現は困難なことですが、これまでのようなアドバイザーやコーディネーターではなく、他力本願ながら、参加者のだれもが信頼し従っていけるような「プロデューサー」が存在すれば話は変わってくると思われれます。

高い能力を持った人材は少なからずおられ、たとえば団塊の世代で現役を離れる方々のなかにも国益のために働いて頂ける可能性は高いし、国が成長戦略としてベンチャーに期待し本気で人材を募れば、今年は飛龍の年になるのではないかと期待しています。



賛助会員 片山 和明

“船場げんきの会”のご紹介

すでにご存知の方も多いと思いますが“船場げんきの会”は「大阪の中心である船場がげんきになると、大阪も変わる。船場を自分たちの手で元気に満ち魅力溢れる街にしよう！」(副代表世話人・日比哲夫氏談)と多方面でご活躍されています。その概要をご紹介します。

- ・発足～ 2004年9月8活動グループで発足
- ・活動グループ～ まちづくり、伝統芸能・現代アート・歴史研究、商店街・異業種交流・ビジネス創造、など船場をステージに24活動グループが集まって活動。
- ・主な活動～ 「船場フォーラム」を2005年よりテーマ決めて開催中。

今年も3月24日(土)に開催を予定されている。

その他「船場まつり」や「船場博覧会」など船場地区で多彩なイベントが行なわれ、幅広い層の方々が参加されています。

豊臣秀吉による大阪城築城に合わせ造成された市街地船場は、かつて物流に合わせて全国からモノと人と情報が集まり、新しい付加価値をつけて再び全国に発信して行きました。

大阪を象徴する地区として発展してきた船場を熱い思いで「げんき」にされています。

～船場の産業と経済の変遷～

- ・住友、鴻池、野村、武田、田辺、伊藤忠、丸紅……日本経済をリードした数多くの大商人、大商家を輩出。
- ・船場の商いは、信用第一。年季奉公や暖簾分けにいたる人を育てるシステムと合理的精神が格調高い商人道を育む。
- ・店には商品を置かず、三品取引所を通じて先物取引。新しい商いのシステムを創出。
- ・問屋は売り手と買い手をつなぐ情報発信機能を持ち、小売業のインキュベーション機能を果たしてきた。
- ・商いで得た利益が社会に還元され、中央公会堂をはじめ、橋、小学校など多くの公共施設が残された。

(船場げんきの会 刊行物より)

「体で聴く」



今、座禅が静かなブームになりつつあります。アップルの創業者、スティーブ・ジョブズ氏も禅を学んでいたのは有名です。又、日経ビジネス「アンシエ」2月号には、仕事の基礎力を高める「大人の習い事」という特集でも座禅が紹介され驚きます。

VECの有志が春と秋、比叡山坂本の最乗院で座禅を企画されますが、終わった後の爽快感に感動します。座禅をすると心が落ち着くのは、脳の覚醒を促すアルファ波と呼ぶ脳波が出る為で、ストレス解消に効果があり、スッキリします。しかし、その良さを体験しても、自宅で座禅をしようという気にはなかなかありません。

私のヨーガ教室では座禅をプログラムに入れていますが、座禅というとなぜかとっつきにくい感じがあります。ところが昨年、異変がありました。あるCDを教室で聴いて頂いたのがきっかけです。自宅でも座禅をしようという人が出てきました。「やさしい道元禅入門」という2枚組みCD。その中で「禅の目的は全機現する事である」と明快に語られています。

全機現とは自分の持つ全ての機能(能力)を、今、ここ、100%発揮していきいき生きる事であると。「人間というのは、どんぐりのせいらべの様なもので、それぞれ、そんなに能力に差があるものではなく、その能力の使い方に問題がある」「多くの人が自分の持つ能力を10~15%しか使っていない」残りの80~90%はどうしているか?過去の事を後悔したり、まだ来ない未来を心配したり、他人の事を気にしたり、今、ここ以外にその能力を使っている。時間的には「今」空間的には「ここ」。今、この自己をいきいき生きる為の体質を作るのが座禅であり、その為には「自己をならう」。習うという字は鳥が羽を99回(百にひとつ足りない)動かし飛ぶ練習をするという意味。座禅で次々浮んでくる、こだわりや引っかかりを息と共に吐く。ならう事が大切である。

只管打坐して身心脱落すると万法に証せられる(あらゆる物事にバックアップされる状態)。そして行動する時、全機現する(自己の持つ能力が100%発揮出来る)、聴いているうちに、自分にも可能性があるとワクワクしてきます。CDは対談式になっていて、道元禅研究家の田里亦無先生が答えます。道元を研究して50年。毎朝30分座禅を続けてこられたと話されるだけに、頭でなく、体で伝わる様な入門編です。習い事レベルでなく、本気で、人生を生きる気にさせるレベルです。そして「体で聴く」ということをビジネスにおいても意識して行きたいものです。

坐・マインドフィットネス 鈴木 雅子

「2012年の挑戦！」

2000年も、はや11年が過ぎいよいよ精神文明に入った。10年間は20世紀にカブリまだまだ物質文明の残りが色濃く漂っていました。

皆さん!今世紀の儲け方解っていますか?!今迄とまったく違う事早く気づいて下さいね。沢山(数千枚)オーラ写真(霊光写真)撮ってきたから男性のほとんどが「生きていきづらい」世の中に入ります。女性は動物的と言うかとても順応出来やすく楽チンです。世の中女子力とか云って活躍している女性、特に大阪のおばさん!鎧・兜で頑張ってきた男の方々、大変大変ご苦労様です。平成九年一月六日イマジン研究所は西区北堀江にて師匠・故百々達郎に教えを乞うて数十年、凄いい事やってはる開発者の方々に出会い、最近では東大大学院S教授から先端技術とまで云われるセラミックも出現。これからもドラエモンのポケットの様に「こんな出ましたけど」と皆さんにご披露してゆきたいと思っています。

私は昔から22と云う数が大好きです。かずの意味は夫婦・富士(不二)なんですけど会合は22日によく開催していました。今から考えると大好きな22年・・・私の身体にとんでもない事がおこりました。それは5月の初めとても暖かな日差しの強い日でした。当時阿波座に住んでおり九条商店街まで散歩に出掛けました。帰り道、茨住吉神社にて湯立て神事に参加出来グラグラ煮立ったお湯を巫女さんにパーッとかけていただけてすっかり浄められてルンルンで家路に着きました。市場で買った里芋を剥いていたら首すじの右側が突然プツ〜ときれたのです。倒れながらこれは大変なことになるな〜と思いました。

室の中で二度倒れ込み意識が遠のきます。その時なら救急車も自分で呼べたのに・・・思うだけデス!激しい嘔吐もありました。すでにテーブルの上にある二個の携帯も取れません。次の朝、印刷業の西山氏が打合わせに訪れてくださる迄私は気を失っていました。きのうから扉の鍵はずーっと開いていたのです。(もともと鍵をずるのが嫌いな私です。)

救急の方から年齢を聞かれ困っている西山氏、私は60デスと云ったとかで私から声が出たことでホッとしたと後で聞かされました。

長時間倒れていてダメージはレベル5とか。回復力はかなりある様です。

そんな理由で22年は半年は病院ぐらし、最高に暑い夏はとても涼しい所ですと車椅子でした。幸いにも運ばれた所は多根脳外科(ドーム隣)。併設されているリハビリ病院は日本でもかなりノミネットされている所、土・日でも毎日少しでもリハビリ(最初は1秒立つ事が出来ず、ヒロタはタコみたい(フニャフニャ)だったとヘルパーさんが笑っていました)

退院患者は通えないリハビリ病院でしたけど、いい病院に運ばれて感謝しかありません。神さま(毎日お月さまのお姿に話しかけています)。仏さま(アミダ池のアミダさま)。ご先祖さま(はるか彼方の先祖の神)。ありがとうございます!!

見えない世界信じられませんか。でも信じて常日頃、道はつけておいて下さいね。神さん仏さんと懇意にしておいて下さい。(人間関係と一緒に)信じる心、つみ重ねて、沢山貯金(お金ではない)していると必ず使う時ありますヨ!

もうこれ以上かけません。

脳と心の治療法「シロダラ」インドアーユルヴェーダ伝承 医学/産技研との共同開発喫煙ルーム、別にイオンルームand自動車にand自販機に「電子機器」、お正月二日にとんでもない仕事入ってきました。またご縁あれば宜しくお願ひします。



※故百々達郎氏はVEC関西支部の初代支部長です。

イマジン研究所・再生創造推進機構 代表 廣田 典子

~VEC関西支部 新年交流会のご案内~

すでにご案内致している方もございますが毎年恒例の新年交流会を開催いたしますので紙面でもご案内いたします。講師と会場(重要文化財)は下記のとおりでございますので是非ご参加下さい。

◆開催日時 平成24年2月16日(木)

午後6時~7時 講演・午後7時~8時30分 立食懇親会

◆講師

株式会社ニブロン 代表取締役社長 酒井 節雄氏

本社:尼崎市大浜町2丁目57番地

資本金:3億3675万円

業種:スイッチ電源及ノンストップ電源等の開発製造販売

現代表の酒井節雄氏が1968年1月に設立。節電・蓄電・停電対策の必要性が増している時代を迎え業容拡大されている注目企業です。

◆会場

「綿業会館」・大阪市中央区備後町2丁目5番8号

同会館は昭和6年(1931年)12月、日本綿業倶楽部の建物として竣工。

玄関ホールはイタリアルネッサンス調でまとめられるなど戦前の日本の近代美術建築の傑作と言われ国の重要文化財に指定されている。

※詳しくはVEC関西支部へお問い合わせ下さい。

訃報

前VEC関西支部長 榊屋好昭氏が昨年11月に逝去されました。

謹んでお悔み申し上げます。

合掌

~VEC関西より~

◆「てんこもり」の今月号の中に、偶然、VEC関西初代支部長・故百々達郎氏、それに、二代目支部長・故榊屋好昭氏の名前が出ました。お二人ともVECの創設に関わられた大先輩です。私がVECに入れていただいて、お二人から夜を徹して酒を飲みながら、仕事の進め方などいろいろ教わりました。今から30年ほど前のことです。お2人のご冥福を願って合掌。(本田)

♥最近のマイブームは道の駅めぐりです。野菜の価格が変動しても道の駅ではわりと一定の価格で買うことができ、新鮮で安心。地元の方々の大変な工夫と努力が伺えます。(藤本)

♣2月号もそれぞれの方から提言や今年の思いなどをご寄稿頂きました。いずれの方もVEC関西支部と関わりが長く、現在も多方面でご活躍中です。VEC関西支部前支部長 故・榊屋好昭氏は関西支部発展のために多大な尽力をされました。ご冥福をお祈り申し上げます。(澤村)

◆<交流会の予定>

平成24年3月22日(木)

新和商事 株式会社

代表取締役社長 森下 喜郎 様

((財)VEC評議員)

☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!